



月刊 千葉労働

労働者の大同 団結が必要!

木更津支部大会

11月14日、「大和」において、木更津支部第21回定期大会が開催された。

大会の冒頭、赤羽根支部長は、「この一年間木更津支部は、労働千葉の最先頭で闘ってきた。経済危機・金融危機が深刻化し、ガイドライン関連法や組織的犯罪対策法の制定策動、や労基法の改悪などの攻撃がかけられる状況のなかで、国鉄闘争に対しては5・28反動判決がだされた。この判決と対決する立場にたたないかぎり勝利の道はない。またわれわれは、大失業と戦争の時代が到来しているという認識にたつて闘う労働組合の全国ネットワークをめざして11・8集会を呼びかけた。今われわれに問われているのは、労働者がどうやって大同団結するのか、ということだ。今日の議論とおして新たな闘いの方針をつくりあげよう」と提起。

その後、本部長中野委員長長の挨拶を受け、執行部からの議案提起が行われ、熱心な討議ののち新執行部を選出し、満場一致で新年度の方針が決定された。

● **《だされた主な意見》**
車両故障が増加している。

当局は、「車両故障半減プロジェクト」などと言って対策会議を開いているが、半減どころか逆に増加傾向にあることを認めている。安全が深刻な状況になっている。

● 会社は、原則出向などと言っているが、55歳を過ぎても出向先確保のメドがたたない状態になっている。

また55歳、57歳で出向にでた後の補充の問題もどう考えているのか、全く道筋がはっきりしない状態だ。

● 年令が高齢化する状況のな

かで、内勤や指導員、教導等の後補充をどうするのか、支区としての全体的な要員問題が、乗務員・検修ともに何ひとつ具体的示されない。当たりの対応になっている。● 今後の要員問題が深刻化しているにも係わらず、駅にだした者を戻そうとしないのは何故か。木更津支区出身でD Cの専門家がいるのだから早急に職場に戻す闘いを強化してほしい。

【98年度新役員】

支部長	赤羽根 宣男
副支部長	多田 勝美
書記長	吉野 道夫
執行委員	鈴木 嘉夫 若林 太海 鈴木 敏夫 多田 敬治郎
会計監査	渡辺 直和 妹川 敏明

賃金格差攻撃 に怒りの声!

新小岩支部大会

11月25日、新小岩支部第22回定期大会が開催された。

大会の冒頭、君塚支部長は、「基地統廃合後3回目の大会となるが、この一年ほどの間にも

つぎつぎに要員削減が行われるなど、会社は新フレイト21に突き進んでいる。貨物の赤字はわれわれが作ったものではない。全て分割・民営化に起因するも

のだ。今年度のベアは腹立たしい六百円という額だった。年末手当でも、会社は生活給としての位置があることを認めながら、大幅な削減を狙っている状況だ。また、京葉線ルートへの移管を巡って、新小岩の基地がどうなるのかという問題に直面している。55歳以降も減額なしの賃金制度、60歳まで働ける労働条件の確立が急務だ。新フレイト21攻撃と対決し、組織の団結を固めよう」と力強く提起した。

つづいて、来賓として東京東部交流センターの仲間、本部長中野委員長、9月に退職された関さんのあいさつを受け、執行部から議案が提起され、満場一致で採択された。

また大会終了後には、各支部から駆けつけた仲間たちも合流して、本部長による年末手当格差・低額回答阻止に向けた緊急集会が行われ、直ちに新たな闘いが開始された。

《だされた主な意見》

● ベアや年末手当の格差が、旅客と比べてどんどん開いている。昨年でも東と比べて30万円もの差ができていた。会社は、今回もさらに切り下げようとしており絶対に許せない。ストライキで闘うべきではないか。

● 昇進試験制度を廃止し、自動昇格にするための闘いを強化してほしい。

● 庁舎を作後に休養室に改造した部屋の防音が悪いので設備改善が必要だ。

● 千葉機関区と新小岩派出の



第22回定期大会
国鉄千葉動力車労働組合新小岩支部

人事異動について、お互いに気まずくならないようなルールを確立してほしい。

【98年度新役員】

支部長	君塚 正治
副支部長	国分 重治
書記長	服部 和夫
執行委員	笠井 清 斎藤 隆男 並木 敬治
特 執	宮内 正志 佐藤 正和
会計監査	栗本 一幸 玉沢 米治

動労総連合
JR貨物に年
末手当の再
回答を要求